

情報 ひがし労

第 25 号

2023年10月12日

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

「熊谷空襲戦跡巡り」に高崎地本青年部が参加！ 「毎日新聞」「埼玉新聞」に研修の様子が掲載されました！



米田主美さん（右）の説明に耳を傾ける参加者たち—熊谷女子高で

↑◎10月9日付け

毎日新聞埼玉版より抜粋

→◎10月12日付け

埼玉新聞より抜粋

市民団体「熊谷空襲を忘れない市民の会」は8日、熊谷市内で「熊谷空襲戦跡巡り」を開催した。1945年8月14日夜、米軍の焼夷弾（しょういだん）で市街地の3分の2が焼失し、266人が亡くなった熊谷空襲。JR東労働組合高崎地方本部青年部ら約20人が参加し、熊谷で起きた戦災の痕跡をたどり、熊谷空襲について理解を深めた。（桜井和憲）

同市榑木町の市立熊谷図書館は、郷土資料展示室で熊谷空襲の概要を説明を受けた後、最初に県立熊谷女子高校を訪れた。同校は空襲で被災して焼失したが、現在の北門は当時南側にあった正門を移築したもので、シンボルの「鈴懸の木」と同様戦火をくぐり抜けた。その後、中央公園にある平和の鐘や戦災メモリアル、空襲を免れた熊谷聖パウロ教会や熊谷寺などを見て回った。



熊谷空襲を受けて移築された北門を見学する参加者ら—8日、熊谷市末広の県立熊谷女子高校

熊谷空襲の痕跡たどる 顔が焼けた秘仏も見学

伊豆してもらわないと分からなかった。今はいつ戦争になるか分からないし、平和は大それたことだ」と感想。熊谷空襲の日に生まれた同会の米田主美代表（78）は「熊谷空襲の跡を見るだけでなく感じて、想像を膨らませてもらえば」と話していた。

高崎地本青年部は、10月8日に熊谷市内で開催された市民団体「熊谷空襲を忘れない市民の会」主催の「熊谷空襲戦跡巡り」に20名が参加しました。熊谷空襲は、1945年8月14日夜、米軍の焼夷弾によって熊谷市の3分の2が焼失。犠牲者は266名にのぼりました。

現地踏査では、県立熊谷女子高校、中央公園、熊谷聖パウロ教会、熊谷寺などを巡り、戦時下の人々の様子や戦争の悲惨さを学びました。

参加者からは、「新しい戦前」とも言われるなか自分ごととして学びたい」「戦争で犠牲になるのは私たち市民であることを伝えていきたい」などの感想が出されました。

戦争の悲惨さを多くの方に伝え、二度と同じ過ちを繰り返さない！